

2024年度（令和6年度） 本年度の学校運営の重点 評価計画

2024.4.1 悠久山栄養調理専門学校 井上 恵

【現状と課題】

◆学生募集状況より

直近7年度分 年度初 在籍状況		ここまで確定値						24.3.28確定	
		平成30年度 2018年度	令和1年度 2019年度	令和2年度 2020年度	令和3年度 2021年度	令和4年度 2022年度	令和5年度 2023年度	令和6年度 2024年度	
新 入 生	栄	29+1(留)	15	19	26+3(テクノ)	25+3(テクノ)	29	21-2+テクノ2	辞退1 併願1
	専	22	26+1(留)	13	16	22	17	16	
	調	25	13+1(留)+6(転)	14+2(転)+3(テクノ)	13+1(転)+6(テクノ)	10+4(テクノ)	11+3(テクノ)	16-2+転3+テクノ1	
	計	77	54+8=62	46+2+3=51	55+1+9=65	57+7=64	57+3=60	53-4+3+3=55	
在 校 生	栄2	25(6喪失)	20(10喪失)	13(2喪失)	18(1喪失)	28(1喪失)	27(1喪失)	25(喪失4)+留1	
	専2	15(2喪失)	20(2喪失)	23(4喪失)	10(3喪失)	15(1喪失)	20(2喪失)	17	
	計	40(8喪失)	40(12喪失)	36(6喪失)	28(4喪失)	43(2喪失)	47(3喪失)	43(4喪失)	
年度初 在籍総数		117	102	87	93	107	107	98	
※喪失=退学、転科等									
テクノ外		117	102	84	84	97	101	95	

R7年度の2年生がマックスで37名 苦しい
栄養士科入学生の減少が痛い

◆今年度の振り返りおよび学校関係者評価委員会（2月7日開催）の協議より

来年度入学者数見込みでは、栄養士科の新入生が減少している。競合校では定員に達しており、効果的な戦略が見いだせていない。オートミールの活用や米粉レシピ作成などで報道、行政に協力をしたが、マスコミへの露出度があがっていない。

学生による4段階の授業評価および自由記述は4年度に続き参考になる。今後も「学生の声を聴く」姿勢の堅持が望まれる。言葉として発せられた声のみならず、学生の背景や環境や歴史なども含め「聴く」職員の力をつけていきたい。

また、夏に栄養士科調理師科事務ごとのミニ論文（悠久山の未来に向けて）を作成し、輪読と協議を行った。参考となる建設的意見が多くあり、6年度の科運営に資する契機となった。振り返るに、5年前は常勤職員が助手の立場に甘んじていた実態があった。しかし常勤職員こそ、授業者として勝負すべきであって、これに向かう自律性が表れていると思われる。実習の運営や学校運営のPDCAサイクル継続が必要である。

事務部については、残念ながらそのような成果は見られなかった。これは事務体制が万全とは言い難い状態が以前より続いているためでもあるが、学園全体の事務体制と運営の透明性を高めるように次年度に向けてもっとも緊急度が高いものである。

以上より「教育活動の質的向上に貢献する事務体制整備」が喫緊の課題である。

【令和6年度 学校運営 取組の重点（案）】

取組の重点

（1） 学生確保 充足率の向上

5年度から踏襲 評価項目は同じとしたい

- ① 新入生の人数 増加ないし確保
- ② OC参加の人数増加ないし確保
- ③ 退学者数の減少

ICTの活用を通じて、動画等のビジュアルに訴える発信に力を入れる

7年度生募集は社会人入試のお得感を増した 8年度も入試要項バージョンアップを進める

（2） 適切な教育課程の編成と実施

- ① 学生による授業評価は継続 4段階評価と自由記述 そのリターンバック

6年度はICTの積極的活用により効率化を図る

- ② 授業に関する常勤職員の自己評価 できれば目標を具体的に設定
- ③ 各科ごとの授業に関する共通目標を設定し評価したい

職員の過重にならないよう様子を見ながら考えたい

観点の具体例は以下 教員からのボトムアップをめざしたい

栄養士科 調理実習ⅠⅡ 給食実習 を重点として

栄養士として目標とする調理技術の具体化 目標設定 と評価

調理師科 基本調理と給食実習の連動 を重点として

調理師として目標とする調理技術の具体化 目標設定 と評価

（3） 教育活動の向上に資する事務体制づくり（新規）

学園と学校が一体となった効率的で無駄のない事務体制

実際問題、これがもっとも喫緊の課題である しかしどのような評価項目を設けるか

暗中模索状態 おそらく「誰も分からない」 だからこそ「取り組まねばならない」

これと連動するのが「業務監査」である 今現在は、ほぼ「実施していない」

学校関係者評価委員会と連動して、まずはきちんと計画をたてねばならない